

《評価の基準》

A：計画通りの成果を得られた

C：計画通りに事業が遂行できなかった

B：一部成果を得られないものもあった

D：事業に着手できなかった

No.	3つの視点			事業名	担当課	事業内容	H28までの評価と課題	評価	H29の評価	評価	今後の方針
	安全	安心	笑顔								
53		○		公園トイレ整備（旧名称：公園トイレ整備事業）	公園緑地環境課	全ての人が安全・安心して利用できるように、トイレの水洗化及びバリアフリー化の整備を行っていきます。	計画どおり遂行され、計画どおりの成果を得た。今後も継続していく。	A	予定外の事業を実施することになったため、H29年度の事業を見送ることとなった。	D	H30年度から再度、継続的に実施していく。
55			○	子どものあそび場整備（旧名称：子どもの遊び場整備事業）	公園緑地環境課	都市公園を子どもやお年寄りはもちろん、障がいのある方にも使用してもらえよう、地域住民の意見を取り入れた整備を進めており、小規模公園も視野に入れながら整備に努めていきます。	住民の意見を取り入れた整備を進めていることから、完成後の公園利用状況・市民評価は良好であり、今後も継続していく。	A	公園施設の長寿命化計画に則り実施しているが、H29はベンチ等遊具以外の更新であったため、地域住民の意見を聞く機会をもたなかった。	B	子どもの遊び場整理については地域の意見を聞きながら、今後も継続していく。
82	○	○		5歳児健診	健康づくり推進課	発達障害の早期発見と適正な支援を目的に実施する健診です。小学校就学前に発達の遅れを発見し、就学に向けた支援をすることを目的にします。	発達支援の体制として、地域の保育園、幼稚園への巡回相談を実施し、集団場面の様子を把握し、必要な児を相談につなげている。3歳児健診以降は特に集団観察が重要とされているため、人的配置等難しい面もあるが巡回相談を拡充する等、就学に向けて継続的に支援体制が組めるよう連携していきたい。5歳児健診の実施については、支援が必要な児に介入する機会としてどのような体制をとるべきか、今後も検討が必要である。	C	5歳児健診には至らなかったが、発達支援の体制として、地域の保育園、幼稚園への巡回相談を実施し、集団場面の様子を把握し、必要な児を相談につなげている。3歳児健診以降は特に集団観察が重要とされているため、人的配置等難しい面もあるが巡回相談を拡充する等、就学に向けて継続的に支援体制が組めるよう連携している。5歳児健診の実施については、支援が必要な児に介入する機会としてどのような体制をとるべきか、今後も検討が必要である。	B	発達障がい等の早期発見と適切な支援のため、5歳児健診以外の方法も含め、どのような取組みが効果的か、引き続き検討していく。

子ども・子育て支援の3つの視点と評価

【安全（23事業）】 A：22事業 B：1事業 C：0事業

【安心（61事業）】 A：59事業 B：1事業 C：0事業 D：1事業

【笑顔（29事業）】 A：28事業 B：1事業 C：0事業